

令和5年度事業報告 及び一般会計歳入歳出決算



茨城県支部

1. 令和5年度事業報告

(1) 被災地における救護活動

「令和6年能登半島地震」等の災害における被災者のいのちと健康を守るため、医療救護等の活動に取り組んだ。

ア 令和5年台風第2号による大雨災害〔発生時期：令和5年6月 被災地：取手市等〕

- ・災害救助法が適応された取手市の双葉地区に救護所を設置

イ 令和5年台風第13号による大雨災害〔発生時期：令和5年9月 被災地：北茨城市等〕

- ・救援物資の搬送

日立市	布団セット	36組	緊急セット	12組
北茨城市	布団セット	15組		
- ・アマチュア無線奉仕団による被災地支援



救護所を設置
〔 6月8日から6月17日：取手市 〕



奉仕団が健康相談に対応
〔 6月8日から6月17日：取手市 〕



救援物資を搬送する職員
〔 9月15日：北茨城市、日立市 〕

ウ 令和6年能登半島地震への対応

・当支部は石川県珠洲市へ医療救護班を派遣するなど、1月1日から4月3日まで災害対応を実施した。

派遣区分	派遣班数
先遣要員※1	1班 2名
災害医療コーディネーターチーム※2	2班 12名
医療救護班・DMAT	5班 36名
こころのケア班	1班 4名

※1 安全な医療救護活動を行うため、被災地の被害状況等をアセスメントする要員

※2 被災地の医療ニーズを把握し救護活動の方針決定等を行う医師等で構成したチーム



避難所での巡回診療



臨時救護所での診療



医療救護班に対して活動方針を指示

(2) 災害救護活動等の強化と地域防災力の向上

災害時に迅速かつ的確に救護活動を展開するため、大子町にて役場や警察署、医師会等と連携した実践的な災害救護訓練・研修を行った。（参加者：約120名）

また、新規事業として防災をテーマに夏休みの自由研究に取り組んでもらえるよう、オンラインで救急法、対面で防災について学ぶ「防災わくわくワークショップ」を開催し、赤十字事業をPRした。（参加者：40名）



避難所の巡回診療を行う救護班
 [常備救護班等災害救護訓練 6月23日～24日：大子町]



無線機を使った通信を体験
 [防災わくわくワークショップ 8月17日：当支部]

(3) 救急法等講習の実施

新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、人と人が接する従来の救助実技等の指導が実施可能となり、講習参加者が前年度と比較して約3,000人増加した。

また、講習普及を安定的に継続するため、新たにボランティアや職員等による救急法指導員を18名養成し指導体制強化に努めた。



コロナ禍以降、海での水上安全法は初開催
 (9月9日～10日 ひたちなか市)



指導員養成講習にて模擬講義を実施
 (11月24日ほか 計6日間 当支部)

	年度	開催数	受講者数
救急法等の開催実績	令和5年度	314 (30)	12,678 (5,658)
	令和4年度	256 (42)	9,430 (4,400)

※()の数はオンライン講習の実績数

(4) 地域包括ケア事業の実施

市民の「自助」や「互助」意識の醸成を図り、より良い地域づくりの一助となることを目的に、笠間市社会福祉協議会とのモデル事業を基に古河市、かすみがうら市においても、幼児安全法や防災セミナー等を実施したほか、支部職員を対象に認知症サポーター養成講座を実施した。



乳幼児の一次救命処置を普及
 〔幼児安全法 12月26日：笠間市社会福祉協議会〕



赤十字奉仕団員に対する家具安全対策ゲーム
 〔防災セミナー 10月19日：かすみがうら市社会福祉協議会〕

(5) 赤十字奉仕団の活動

- ・ 赤十字活動資金の募集をはじめ、義援金の呼び掛けやNHK海外たすけあい募金活動を実施した。
- ・ 地域の子供たちを対象とした車いす体験などの福祉イベントを実施した。
- ・ 高齢者、生活困窮者等の支援や児童育成の地域支援活動を実施した。
- ・ クリスマス献血キャンペーンなど、年間通して献血普及活動を実施した。

【奉仕団数及び奉仕団員数】

※アマ無線奉仕団、看護奉仕団、乳児院奉仕団、学生奉仕団 など

年 度	地域奉仕団		特別奉仕団※		総 数	
	団数	団員数	団数	団員数	団数	団員数
令和5年度	42団	6, 101人	11団	853人	53団	6, 954人
令和4年度	42団	6, 552人	11団	803人	53団	7, 355人



子供たちを対象とした車いす体験
 (那珂市赤十字奉仕団 6月13日ほか：那珂市)



クリスマス献血キャンペーンの様子
 (茨城キリスト教大学学生赤十字奉仕団 12月17日：水戸市) 6

(6) 青少年赤十字の活動

青少年赤十字活動の充実と加盟促進

- ・ 県内中・高生を対象とした「リーダーシップ・トレーニング・センター」を、4年ぶりに実施した。(18校49名参加)
- ・ 青少年赤十字指導者に対し、防災教材に関するオンラインセミナーを実施した。(60校63名参加)
- ・ 大韓赤十字社から青少年赤十字メンバー(2名)を受け入れ、交流会を実施した。



リーダーシップ・トレーニング・センター
 防災プログラムに取り組む様子〔8月23日：水戸市〕

青少年赤十字国際交流事業 大韓赤十字メンバー
 (写真中央)との交流会の様子〔11月19日：当支部〕

【青少年赤十字の加盟状況】

	幼稚園 保育所等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	通信制	計
加盟校数	7園	152校	92校	4校	69校	4校	3校	1校	332校
県内学校数	1043園	449校	224校	15校	112校	6校	25校	9校	1883園・校
加盟率	0.6%	33.8%	41.0%	26.6%	61.6%	66.6%	12.0%	11.1%	17.6%

(7) 国際支援活動

ア 国際開発協力事業の推進（資金の援助）

北関東四県支部（茨城・栃木・群馬・埼玉）は、国際支援の一環として、各支部から次の資金援助を行った。

- ・保健医療支援事業（バングラディッシュ赤新月社）
- ・コミュニティ防災強化事業（インドネシア赤十字社）

に対し、それぞれ50万円※の資金援助 ※当支部が援助した額



※生徒に対し、防災能力を高め、防災知識を教えている様子



※難民自らがボランティアとして、キャンプに住む人々へ、感染症予防を普及

イ 海外たすけあい募金キャンペーンの実施

12月1日から25日までの間、海外における紛争や災害、病気などで苦しんでいる人々を支援するため、NHKと協働で「海外たすけあい」募金キャンペーンを行った。

年度	件数	金額（円）
令和5年度	662	805,813
令和4年度	579	960,817

ウ 海外救援金の受付

海外で発生した災害や紛争で苦しんでいる人を支援するため、海外救援金を受け付けた。

※令和5年度に受け付けた海外救援金

救援金名	件数	金額（円）
アフガニスタン人道危機救援金	1	1,518
ウクライナ人道危機救援金	144	3,497,442
2023年アフガニスタン地震救援金	2	11,614
中東人道危機救援金	3	13,373
バングラデシュ南部避難民救援金	1	3,394
2023年トルコ・シリア地震救援金	116	4,077,209
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	21	1,178,428
2023年モロッコ地震救援金	8	86,606
2023年リビア洪水救援金	3	10,446
イスラエル・ガザ人道危機救援金	26	170,502
青少年赤十字活動資金	13	54,160
無指定海外救援金	2	8,585
合計	340	9,113,277

※令和4年度に受け付けた海外救援金 874件 38,372,876円

（ウクライナ人道危機救援金3,266万円、2023年トルコ・シリア地震救援金560万円等）

(8) DXの推進

急速に進む社会のデジタル化を踏まえ、令和4年度に立ち上げた「茨城県支部管内施設デジタル推進検討会」において、赤十字事業のサービス向上、業務の効率化に資すよう継続してDXを推進した。

令和5年度は、外部専門家（DXアドバイザー）による知見を活用し、パイロット施設（古河赤十字病院）の業務ヒアリングを実施した。

現在、AI-OCR（画像から文字認識しデータ化する機能）の導入に向けて、製品選定及びトライアル運用を進めている。

○当支部において、以下の業務のデジタル化を図った。

- ・ 決裁業務（電子決裁）
- ・ 文書收受業務
- ・ 勤怠管理業務
- ・ 給与明細通知（年末調整含む）
- ・ 赤十字講習会受付業務

(9) 赤十字活動の広報

多くの県民から共感を得られるよう日本赤十字社の使命や活動を分かりやすく伝えるなど、積極的な広報の展開に努めた。

- ・ 広報紙等の配布

赤十字の活動を支援する会員の皆さまに対して、広報紙「日赤茨城」

(夏号：571,000部、冬号：339,000部) や「赤十字NEWS」(毎月1,765部)

などを送付し、活動資金の使いみちなど事業報告を行い、赤十字活動への理解促進に努めました。

- ・ メディアに対し、当支部の災害救護活動や防災イベントの取り組み、青少年赤十字事業等について、積極的に情報提供し新聞やラジオなどに取り上げられた。

年度	プレスリリース回数	メディアによる発信・報道				
		テレビ	新聞	ラジオ	タウン誌	計
令和5年度	7回	2回	15回	34回	18回	69回
令和4年度	3回	1回	13回	32回	23回	69回

(10) 活動資金の確保 ①取組と結果

取組

- ・ 地区区分との連携、既存会員の維持・確保、新規会員の獲得、法人寄付の受付推進、遺贈等寄付の受付推進を5つの柱として、多様な資金確保策を展開した。

結果

- ・ **3億6,100万円**を確保。【目標額（3億7,500万円）**達成率96%**】

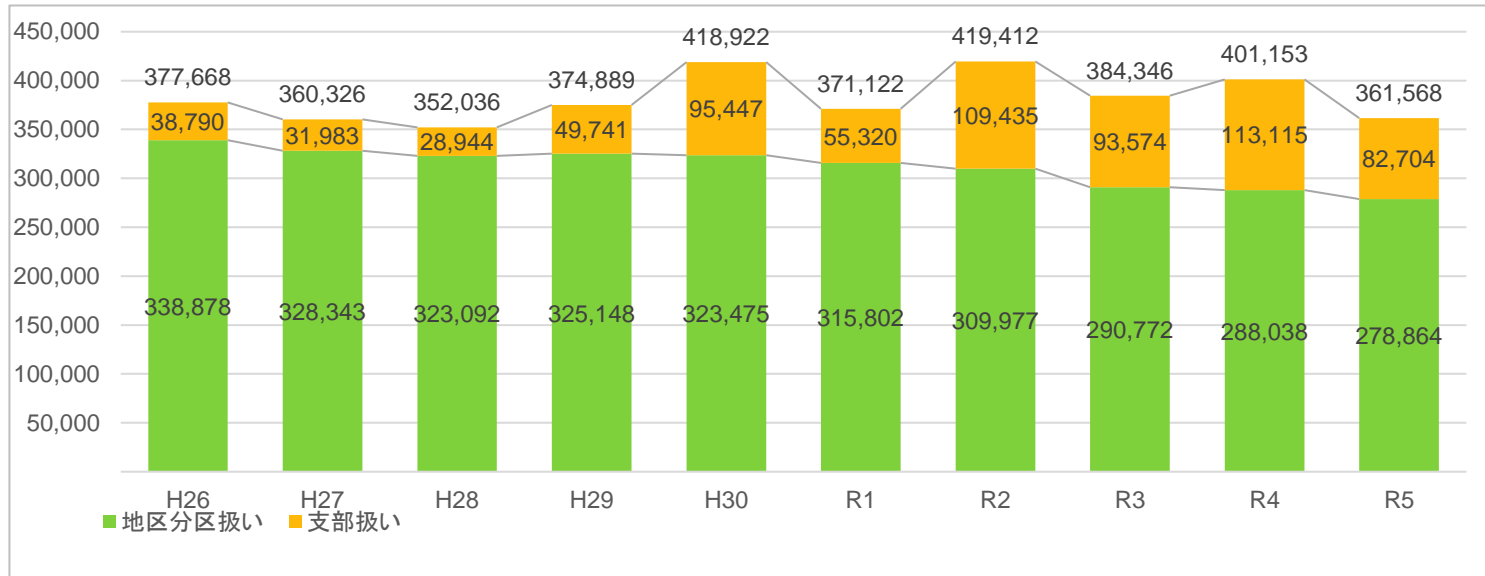
〈 活動資金確保プロジェクト 〉

柱	主な取り組み
地区区分との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会等を通じた各世帯への協力依頼 ・ 地元企業への個別訪問による協力依頼
既存会員の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援継続及び支援拡大を目的とした会員向け会報誌の配布 ・ 支部職員担当制による会員への定期挨拶や個別依頼等 ・ クレジットカード決済や口座振替による活動資金協力の推進
新規会員の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義援金、海外救援金寄付者及び優良企業等へのダイレクトメールによる依頼 ・ 個人の祝事記念や法人・団体の周年記念での協力 ・ クレジットカードやスマホアプリなど非接触型による寄付協力方法の周知
法人寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業界団体を通じて、団体会員へ活動資金協力を依頼 ・ 地元企業を訪問し活動資金協力を依頼
遺贈等寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土業（司法書士会）会員を通じた遺贈・相続財産寄付の推進【新規】 ・ 遺贈、相続財産寄付セミナーを通じて、赤十字への寄付を呼びかけ【再開】 ・ 地元地方金融機関との連携による遺贈、相続財産寄付の推進

(10) 活動資金の確保 ②現況

当支部の活動資金実績額の推移

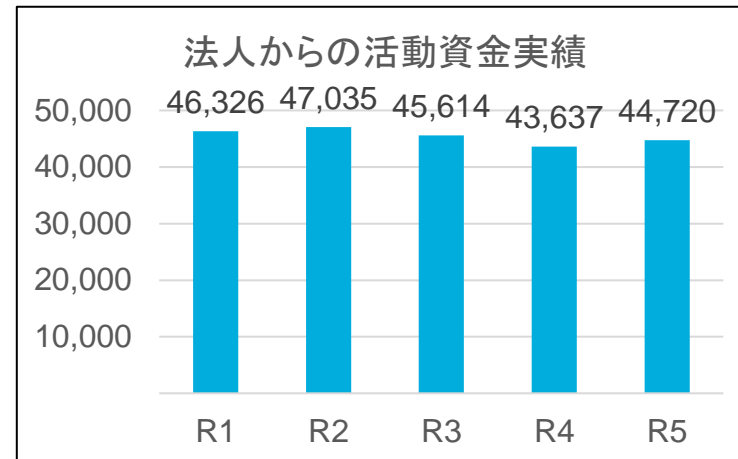
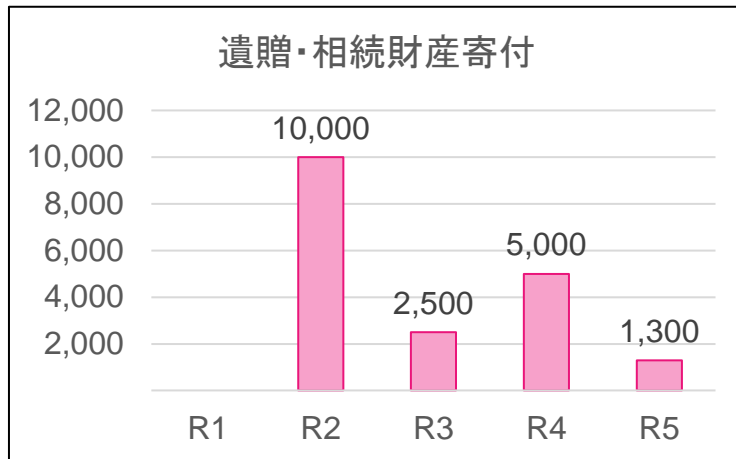
(単位：千円)



・活動資金の基盤となる地区分区扱いの「町内会(世帯)からの活動金」は町内会の加入率の低下などにより、減少傾向に歯止めがかからない状況にあることから、法人など新たな協力者確保に向け、引き続き多様な募集方法の検討が必要。

(10) 活動資金の確保 ③課題

(単位：千円)



- 近年、取り組みを強化している個人からの遺贈・相続財産の寄付について、定期的にセミナーを開催するなど、遺贈についての周知と確保をさらに努める。
- 法人からの活動資金については、コロナ禍により減少傾向にあったが、ダイレクトメールによる寄付の依頼などにより確保に努めているところである。今後、多様な募集方法を検討し、より強力に協力依頼を進める。

2. 令和5年度一般会計歳入歳出決算

(単位：千円)

科目	R5決算	R4決算	増減
歳入	601,490	537,486	64,004
歳出	505,405	421,211	84,194
差引 (翌年度繰越額)	96,085	116,275	△20,190

(1) 歳入決算

(単位：千円)

科目	R5決算	R4決算	増減	主な収入	主な増減理由(100万円以上)
社資収入	365,786	410,940	△45,154	一般社資 (個人からの寄付) 法人社資 (法人および団体からの寄付)	<ul style="list-style-type: none"> 支部扱社資 82,705(△30,411) 地区分区扱社資 278,864(△9,175) 計 361,569 ※トルコ・シリア地震救援金等含む (4,217)
災害義援金 預り金収入	87,319	0	87,319	県内災害発生による義援金	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年台風第2号等大雨災害義援金 令和5年台風第13号災害義援金
雑収入等	32,110	22,673	9,437	本社交付金 他会計からの資金繰入金 講習会等負担金	<ul style="list-style-type: none"> 講習回数が増 活動助成金返還の増
前年度繰越金	116,275	103,873	12,402	前年度繰越金	
合計	601,490	537,486	64,004		

(2) 歳出決算

(単位：千円)

科 目	R5決算	R4決算	増減	主な用途	主な増減理由（100万円以上）
災害救護事業費	128,893	33,694	95,199	災害対応訓練 災害対応における救援物資整備	<ul style="list-style-type: none"> ・救護班派遣の増 ・災害義援金預り金支出の増 [令和5年台風第2号等大雨災害義援金 令和5年台風第13号災害義援金]
社会活動費	45,442	46,912	△1,470	救急法などの講習、 奉仕団・青少年赤十字活動の普及	<ul style="list-style-type: none"> ・JRC100周年事業終了による減
国際活動費	5,217	10,792	△5,575	海外支援・開発協力活動 バングラデシュ保健医療支援事業 インドネシアコミュニティ防災事業	<ul style="list-style-type: none"> ・トルコ・シリア地震救援金の減 (R4:9,787 R5:4,217)
指定事業地方振興費 (個人住民税)	12,862	18,529	△5,667	地区分区への救護資機材整備 災害対応における救護資機材整備	<ul style="list-style-type: none"> ・個人住民税控除対象寄付金の減 (海外救援金)
地区分区交付金	47,935	50,178	△2,243	地区分区における赤十字活動費用に 充てるため地区分区扱いの社資収入 の一定割合を交付するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・社資収入減に伴う減
社業振興費	49,750	41,223	8,527	活動資金募集、広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌増刷による増
基盤整備交付金	10,771	8,560	2,211	病院等赤十字施設の整備を目的とし た寄付金を交付するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・病院への用途指定寄付金の増
積立金	60,323	71,594	△11,271	[災害積立] 災害発生時等、緊急経費 [施設積立] 建物等の減価償却分	<ul style="list-style-type: none"> ・[施設積立]積立金の減
総務管理費	64,301	67,552	△3,251	事務管理等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保険料事業主負担分の減
資産取得 及び資産管理費	27,948	14,333	13,615	支部庁舎の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎修繕工事に伴う増
本社送納金	51,963	57,844	△5,881	全国的な赤十字活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社資収入減に伴う減
合 計	505,405	421,211	84,194		

令和5年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



100年に感謝 ~これからも地域とともに~

水戸赤十字病院

1. 令和5年度事業報告

(1) 病院の特徴

ア.病床数 許可病床：442床 実働病床：338床

イ.診療科 25診療科

ウ.特徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 紹介受診重点医療機関
- ・ 地域周産期母子医療センター
- ・ 地域リハビリテーション広域支援センター
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 緩和ケア病棟
- ・ 人間ドック施設 等
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 茨城県がん診療指定病院
- ・ エイズ診療拠点病院
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ ハイケアユニット病棟
- ・ 地域包括ケア病棟

エ.職員数：637人（常勤換算数）

医師：84.0人 看護師：318.1人 医療技術者：91.0人 その他：143.9人

※佐藤宏喜 院長のご逝去により、令和6年4月1日に新院長として
野澤英雄（前副院長（院長代行））が就任

(2) 重要施策

ア. 地域医療構想への対応

- ・水戸地域内の6病院を対象とした再編統合等に関し、県や医師会とも連携しながら、地域医療構想調整会議において、引き続き検討していくこととなり、茨城県の第8次保健医療計画に明記された。
- ・水戸地域医療構想調整会議における協議により、当院は、外来に関し、かかりつけ医から紹介された患者の診療に重点をおく「紹介受診重点医療機関」として認められ、国・県から公表された。
- ・新病棟等基本構想を策定し、今後目指すべき診療機能や計画を進めるうえでの課題等を明確にする一方、老朽化した病棟の修繕整備を実施し、リハビリテーションを行う区域の増設を行うなど、患者の利便性の向上を図った。

イ. 医師の働き方改革の推進

- ・令和6年4月からの働き方改革関連法施行に伴い、医師の時間外労働に上限規制が設けられ、当院では、医師の時間外労働の年間上限を960時間以内とするA水準を適用することとした。
- ・医師の長時間労働を是正し、業務負担の軽減や健康の確保を図るため、医師事務作業補助者の雇用による一部業務のタスクシフトや、医師の宿直勤務に関する労働基準監督署の許可の取得、さらには宿直時間帯における非常勤の救急専門医の確保などに取り組み、医師の働く環境の改善に努めた。

ウ.災害医療の充実

- ・ 12月に実施した震災対応訓練では、保健医療圏内外の病院と連携し、患者の転入・転送を想定した通信訓練を実施した。
- ・ 備蓄食料については、基準とする職員数及び患者数から、現状に即した数量に見直しを図り、適正数量を配備した。
- ・ 能登半島地震の際には、被災者救護及び支援活動として、災害救護班等を5回にわたり派遣した。
- ・ 水害対策については、茨城大学の災害対策を専門とする部門と協議を行った。

エ.DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 茨城県政策企画部情報化統括監として活躍していた人材を採用し、デジタル対策部門の強化を図った。
- ・ 車番チケットレスシステムを駐車場に導入し、駐車券等の消耗品の削減や職員の業務フローの改善、業務負担の軽減を図ることができた。
- ・ マイナンバーカードリーダーや各種支払方法に対応した電子決済端末を導入し、患者の利便性の向上を図った。

オ.創立100周年記念事業の実施

- ・令和5年6月10日に開催した記念式典及び祝賀会では、日本赤十字社の関係者をはじめ、茨城県知事、水戸市長、県・市郡の医師会長及び連携医療機関等から延227人の方々にご参加いただき、広く県内外に当院をPRすることができた。
- ・記念イベントとして、記念パネル展や記念映像の放映、ラッピングバスの運行等を行ったほか、全26回のラジオ番組として、健康や医療などの情報発信を行う、「水戸日赤の今日もおだいじに」を放送するなど、積極的に当院の周知を図った。

カ.救急患者受入体制の拡充

- ・宿直時間帯に救急専門の非常勤医師を採用したことにより、救急車搬送受入件数は前年度から712件増の2,581件を数え、はじめて年間2,000件超えを実現した。
- ・結果として、常勤医師の負担が軽減され、医師の働き方改革の推進にも寄与した。

(3) 重要指標

ア. 1日平均患者数

外来患者

(単位：人)

5年度決算	717
5年度計画	770
4年度実績	746

入院患者

(単位：人)

5年度決算	209
5年度計画	220
4年度実績	204

イ. 1人1日当り患者収益

外来患者

(単位：円)

5年度決算	20,934
5年度計画	20,200
4年度実績	19,845

入院患者

(単位：円)

5年度決算	62,270
5年度計画	65,900
4年度実績	65,883

2. 令和5年度歳入歳出決算の概要

・ 収益的収入

(単位：千円)

	5年度決算	4年度決算	備考（主な内容等）
入院診療収益	4,765,039	4,913,683	病床稼働率 61.9% 入院延患者数 76,522人
室料差額収益	109,645	99,029	個室料収入
外来診療収益	3,634,669	3,600,251	診療実日数 242日 外来延患者数 173,629人
保健予防活動収益	161,963	174,485	人間ドック収入等 (宿泊ドックは休止中)
その他医業収益	52,433	64,033	診断書料収入等
医業外収益等	405,039	1,856,649	補助金収入等 [R4:病床確保料収入約15億円]
合 計	9,128,788	10,708,130	

2. 令和5年度歳入歳出決算の概要

・ 収益的支出

(単位：千円)

	5年度決算	4年度決算	備考（主な内容等）
材料費	2,805,800	2,741,707	医薬品、診療材料、給食材料費等
給与費	5,237,718	5,232,099	医師、看護師等人件費
委託費	599,017	522,935	清掃、警備、保守、医事業務等
設備関係費	918,038	862,422	器機賃借料、修繕費等 [減価償却費約6.3億円]
研究研修費	27,041	21,227	図書費、旅費交通費等
経費	425,478	428,956	水道光熱費、福利厚生費等
医業外費用等	372,297	225,988	看護師等委託養成費、診療費減免等 [看護学校解体費約1.5億円]
合計	10,385,389	10,035,334	

3. 令和5年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	5年度決算	4年度決算	備考（主な内容等）
収益的収入	9,128,788	10,708,130	入院診療単価の減少、補助金の減少
収益的支出	10,385,389	10,035,334	材料費、委託費、設備関係費、医業外費用等の増加
収入支出差引額	▲1,256,601	672,796	4年ぶりの赤字決算

- (1) 収入では、救急車搬送受入件数の増加等により、1日平均入院患者数は前年度を上回ったものの、入院診療単価が高い新型コロナウイルス感染症患者の減少や、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金の終了等により、前年度より大幅な減収となった。
- (2) 支出では、材料費、委託費、設備関係費、医業外費用等が前年度よりも増加した。なお、5類移行後もゾーニングやガウンの着用等、継続した感染症対策を余儀なくされていることも大きく影響している。
- (3) 大幅な減収に加え、支出増加の影響もあり、収支差引額は、マイナス12億5,660万円と4年ぶりの赤字決算となった。その対応として、これまで蓄えてきた内部留保資金を取り崩して赤字補填を行った。

4. 今後の対策

患者数の減による医業収益の減少や物価高騰による医業費用の増により、病院の収益が著しく悪化していることから、経営健全化に向け、以下の取り組みを行っていく。

(1) 新規患者受け入れ確保に向けた体制の強化

- ・令和6年4月に病院組織の改編を行い、紹介受診重点医療機関として、地域の医療機関への訪問活動を一層積極的に展開できるよう強化し、もって紹介患者の受入確保に繋げるとともに、非常勤の救急医を雇用して、宿直時間帯の救急患者の受入体制強化を図る。

(2) 不足する医師の確保やデジタル化による診療体制の充実・強化

- ・大学医局への訪問活動や民間の医師紹介会社の活用により、不足する医師確保に努め、入院・外来患者や救急患者への対応の強化を図るとともに、デジタル化を進め、業務効率化で生み出された余剰労力を必要な部署に配置転換し、診療体制の向上を図る。

(3) 診療報酬改定に伴う対応

- ・診療報酬改定に伴い、算定漏れの防止に努めるとともに、医業収益の増に繋がる新たな施設基準の取得を目指し、そのために必要な体制等の検討を進める。

(4) 一層の経費削減

- ・設備投資については、老朽化が顕著なものや働き方改革などに寄与するものを選定するとともに、水道光熱費や医薬品などの各種契約内容の見直しを行い、一層の経費削減に努める。

令和5年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



70年の信頼を、今日も明日も、これからも。

古河赤十字病院

1. 令和5年度事業報告

(1) 病院の特徴

ア 病床数 許可病床：200床 実働病床：200床

イ 診療科 27診療科

ウ 特徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 紹介受診重点医療機関
- ・ 病院群輪番制病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 救急救命士実習病院
- ・ 自治医科大学古河地域臨床教育センター
- ・ 在宅医療参入促進連絡医療機関
- ・ 新型コロナウイルス感染症重点医療機関（特定機能病院等）
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 小児二次救急輪番病院
- ・ DPC（包括医療）対象病院
- ・ 地域包括ケア病棟(50床)
- ・ 難病医療協力病院 他

工 職員数：339.6人（常勤換算数）

医師：37.0人、看護師：162.3人、医療技術者：62.3人

その他：78.0人

(2) 重要施策

ア 収支改善対策

- ・入院患者を増やす方策として、「非常勤救急日当直医」を雇用した。救急車応需率を高めることに力を入れた結果、応需率が約70%まで改善した。
- ・近隣の医療機関からの紹介患者受入れ増を目的としてその関係強化を図った。医師側の発案により、医師自ら施設を訪問し患者紹介を促進したり、また、開業医を対象に地域感染対策カンファランスなどを開催した。その結果、外来患者数も徐々にコロナ前に戻る兆候を示してきた。
- ・経費増を抑える方策として費用の縮減計画を実施した。一例として電気料について、患者に影響のないように計画的に節電に努めたこと、そして暖冬の影響等もあり、前年度と比較して年間で大幅な費用削減ができた。

イ 能登半島地震災害救護活動

- ・元日に発生した能登半島地震について、1月から3月にかけて災害救護チームを2回、こころのケアチームを1回、災害医療コーディネーターチームを1回ほど現地に派遣し、日本赤十字社の使命である災害救護等に積極的の取り組んだ。また3月には行政や近隣医療機関にも声掛けして、救護活動報告会を実施した。

ウ 病院機能評価認定の更新

- ・昨年11月27、28日に病院機能評価認定更新のため当該機構の審査を受審した。複数のサーベイヤーによる厳格な訪問審査を受けた結果、病院運営は概ね良好ということで、本年3月8日付で更新の認定を受けた。

(2) 重要施策

工 医師の働き方改革の推進

- ・令和6年4月からの医師の時間外労働規制の施行に向けて以下の取り組みを実施した。
「医師事務作業補助者の採用促進」、「医師の労働と自己研鑽の違いの明文化」、「非常勤救急日当直医の雇用」、「労基署からの宿直勤務許可施設の認定」
- ・その結果、月80時間を超える時間外労働の医師はいなくなり、職場環境の改善が図られた。

オ 医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・次期電子カルテシステムの更新について、従来方式とクラウド方式の比較検討をしながら整備計画の準備を進めた。
- ・県支部が進めているDX化のパイロット施設となり、対象項目の検討を重ねた結果、薬剤部の手入力作業をAI-OCR、RPAを活用して業務改善を図っていくとの方針を決定した。

カ 創立70周年記念事業

- ・昨年11月1日に創立70周年を迎え、12月2日に来賓を招き記念式典を開催した。また、記念誌も発刊した。70周年にあたり「70年の信頼を、今日も明日も、これからも」というキャッチコピーを作り、70年にわたり培ってきた当院の信頼を、過去から現在、現在から未来へ繋げていくという古河赤十字病院の決意を示した。

(3) 重要指標

ア 一日平均患者数

外来患者

(単位：人)

R5年度実績	383
R5年度計画	410
R4年度実績	397

入院患者

(単位：人)

R5年度実績	123
R5年度計画	146
R4年度実績	124

イ 1人1日当たり患者収益

外来患者

(単位：円)

R5年度実績	12,512
R5年度計画	13,700
R4年度実績	13,576

入院患者

(単位：円)

R5年度実績	50,713
R5年度計画	54,000
R4年度実績	53,047

2. 令和5年度歳入歳出決算の概要

・ 収益的収入

(単位：千円)

	5年度決算	4年度決算	備考（主な内容等）
入院診療収益	2,274,671	2,398,945	病床稼働率 61.3% 入院延患者数 44,854人
室料差額収益	105,952	92,098	個室料収入
外来診療収益	1,275,348	1,432,256	診療実日数 266日 外来延患者数 101,929人
保健予防活動収益	163,940	162,740	新型コロナワクチン接種 人間ドック・企業健診収入等
その他の医業収益	46,733	41,196	診断書料収入等
医業外収益等	144,568	1,004,206	補助金収入等 [病床確保料収入約4千万円]
合 計	4,011,212	5,131,441	

2. 令和5年度歳入歳出決算の概要

・収益的支出

(単位：千円)

	5年度決算	4年度決算	備考（主な内容等）
材料費	823,668	899,582	医薬品、診療材料、給食材料費等
給与費	2,666,284	2,604,171	医師、看護師等人件費
委託費	394,512	359,292	清掃、保守、医事業務等
設備関係費	481,222	491,366	器機賃借料、修繕費等 [減価償却費約 2億9,400万円]
研究研修費	5,775	6,153	図書費、旅費交通費等
経費	167,238	199,441	水道光熱費、福利厚生費等
医業外費用等	96,550	91,007	看護師等委託養成費、診療費減免等
合 計	4,635,249	4,651,012	

3. 令和5年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	5年度決算	4年度決算	備考（主な内容等）
収益的収入	4,011,212	5,131,441	入院・外来診療収益の減少。病床確保料約4千万円
収益的支出	4,635,249	4,651,012	委託費等増加、材料費、設備関係費減少。
収入支出差引額	▲624,037	480,429	

- (1) 収入では、新型コロナウイルス感染症患者の減少ならびに外来選定療養費等の影響による患者数減、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等も終了したことにより収入減となった。40億1,121万円（前年度比 ▲21.83%）
- (2) 支出では、物価高騰の影響や委託費の増加があったが、新型コロナウイルス感染症関連の医薬品等の減少により全体では、支出減となった。46億3,525万円（前年度比 ▲0.34%）
- (3) 以上、支出は前年度比では減少しているが、収入を上回る支出により収支差引額は、6億2,404万円の赤字決算となった。その対応としてはこれまで蓄えてきた内部留保資金を取り崩して赤字補填を行った。

4. 今後の対策

(1) 救急受入れの強化

非常勤救急医の雇用拡大と院内の意識改革により救急車受入れ台数の増加を図る（目標2,000台/年）とともに、より重症度の高い救急患者の受入れにより入院診療単価の改善を図る。

(2) 紹介患者対策

新型コロナウイルス感染症による病院運営への影響が減少し、当院も紹介受診重点医療機関として紹介患者の受入れ強化を図る必要がある。診療所や施設との関係強化のため、情報共有・意見交換の場を定期的に持つ。

(3) 診療報酬改定への適確な対応

施設基準等で算定漏れ、届け出ミスがないように複数人によるチェック体制を築き医業収益の増加を図る。

(4) 医療DXの推進による業務効率の改善

電子カルテシステムの更新計画、AI-OCR・RPA等の活用を促進し業務効率の改善を図っていく。

令和5年度事業報告 及び社会福祉施設特別会計 歳入歳出決算



支部乳児院

1. 令和5年度事業報告

(1) 乳児院の概要

ア 児童福祉法に基づき設立・認可

- ・ 家庭の様々な事情のため養育困難な乳幼児を、県内の児童相談所より、措置・一時保護として預かり、昼夜にわたり必要な期間養育を行う。
- ・ 家庭的な養育を基本に、一人ひとりの発達段階に合わせた、きめ細やかな関わりと、安全で健やかに成長できる生活の場を提供する。

イ 定員：38人

ウ 職員数：47人（嘱託・臨時職員含む）

医師：1人、嘱託医：1人、看護師：8人、保育士：25人
管理栄養士：1人、その他：11人

(2) 事業報告概要

ア 事業

- ・子育て短期支援事業（ショートステイ）
各市町村からの委託により、家庭での養育が一時的に困難な乳幼児を受入れた（15名を受入）。
- ・小規模グループケア
ケア形態を小規模に、より家庭的な環境下での養育を実施した。
- ・日曜の家事業
入所児が一般家庭において、一時的な家庭生活体験を実施した（延べ56名が体験）。
- ・里親委託の推進
里親支援専門相談員と関係機関が連携し、里親委託の推進及び支援を行った（4名を委託）。
- ・病虚弱児の受入
児童相談所や医療機関と連携し、病虚弱児を受入れた（8名在籍）。

イ その他

- ・デジタル化の推進
電子決裁の導入（R5.4月から稼働）
出退勤管理システムおよび院内Wi-Fiの導入準備（R6.4月導入）

2. 令和5年度歳入歳出決算の概要

・収 入

(単位：千円)

	R5年度決算	R4年度決算	備考（主な内容等）
措置費収入	327,580	297,353	事業費、事務費
補助金事業収入	1,778	528	ICT化推進事業補助金 物価高騰対策支援金
受託事業収入	781	396	子育て短期支援（ショートステイ）
経常経費寄附金収入	496	370	寄附金
他会計繰入金収入	3,619	5,190	使途指定寄附金
その他の収入	193	78	受入研修費 等
前年度繰越金	86,833	84,591	前年度繰越金
合 計	421,280	388,506	

2. 令和5年度歳入歳出決算の概要

・ 支 出

(単位：千円)

	R5年度決算	R4年度決算	備考（主な内容等）
人件費支出	251,696	229,680	看護師、保育士等人件費
事業費支出	25,287	25,175	給食費、被服費、水道光熱費等
事務費支出	19,804	18,924	修繕費、消耗品費、委託費等
固定資産取得支出	0	1,959	
積立資産支出	20,000	15,000	措置施設繰越資産支出
その他の支出	12,443	10,935	退職拠出金
合 計	329,230	301,673	

3. 令和5年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	R5年度決算	R4年度決算	備考（主な内容等）
収入	421,280	388,506	措置費収入の増
支出	329,230	301,673	人件費の増
収入支出差引額	92,050	86,833	

- (1) 収入では、措置費保護単価の増額及び入所児数が増えたことにより収入増となった。
- (2) 支出では、人件費が増えたことにより支出増となった。
- (3) 支出を上回る収入により、収支差引額は9,200万円の黒字決算となった。

令和5年度事業報告



茨城県
赤十字血液センター

1. 血液センターの特徴

令和6年3月31日現在

ア 施設	:	血液センター（茨城町）		
		供給出張所（つくば市）		
		献血ルーム（つくば市・水戸市）		
イ 職員数	:	正規職員	116名	常勤嘱託等 62名
ウ 車両	:	移動採血車	7台	献血運搬車 15台
		その他車両	19台	

2. 血液事業

- 血液事業運営は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」等の関係法令を遵守した。
- 採血事業者及び医薬品販売業者としての責務である血液製剤の安全性及び安定した供給体制を確保した。
- 献血者の保護を行った。
- 関東甲信越ブロック血液センターと同ブロック内の地域血液センターと連携し、円滑な広域需給管理体制を推進した。

3. 令和5年度事業報告の概要

(1) 事業内容

ア 献血者の安定的確保

- つくば献血ルームは、献血者の環境改善と採血効率の向上を図るため、令和6年3月1日にトナリエつくばスクエア トナリエクレオの4階に増床のうえ移転した。
- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、これまで感染拡大防止のために献血の受入れを取りやめていた事業所に対して受入れ再開の依頼を行った。
- LINE等SNSを活用した献血広報を実施したほか、献血アプリ会員の確保に努めるとともに、献血者の安定確保と献血会場での待ち時間の短縮を目的に献血の事前予約を引き続き推進した。
- 献血受入計画を達成するため、県・市町村及び献血推進団体等と連携した。

イ 血液製剤の安定供給の確保

- 医療機関からの需要に応じて、血小板成分献血及び400mL献血を推進した。
- 医療機関の需要に的確かつ迅速に対応できる365日24時間の供給体制を実施した。
- 非常時の通信基盤強化と受注業務の過誤防止のため、Webによる受発注を推進した。

(2) 採血実績

ア 関東甲信越ブロック全体

(単位：本)

採血種別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
200m L 献血	66,127	61,840	107.0%
400m L 献血	1,204,997	1,184,267	101.8%
血漿成分献血	411,394	414,529	99.2%
血小板成分献血	199,931	198,421	100.8%
合 計	1,882,449	1,859,057	101.3%

5年度計画	対計画比
36,513	181.1%
1,211,010	99.5%
398,133	103.3%
216,451	92.4%
1,862,107	101.1%

イ 茨城県赤十字血液センター全体

(単位：本)

採血種別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
200m L 献血	3,293	3,701	89.0%
400m L 献血	70,766	71,062	99.6%
血漿成分献血	21,892	23,447	93.4%
血小板成分献血	6,963	6,086	114.4%
合 計	102,914	104,296	98.7%

5年度計画	対計画比
2,359	139.6%
72,599	97.5%
20,745	105.5%
6,700	103.9%
102,403	100.5%

ウ 茨城県赤十字血液センター施設別内訳

・移動採血

(単位：本)

採血種別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
200m L 献血	2,361	2,596	90.9%
400m L 献血	47,697	47,704	100.0%
合 計	50,058	50,300	99.5%

5年度計画	対計画比
2,167	108.9%
49,195	97.0%
51,362	97.5%

・水戸献血ルーム（水戸出張所）

(単位：本)

採血種別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
200m L 献血	685	847	80.9%
400m L 献血	11,392	11,760	96.9%
血漿成分献血	12,483	13,462	92.7%
血小板成分献血	2,367	1,800	131.5%
合 計	26,927	27,869	96.6%

5年度計画	対計画比
96	713.5%
12,877	88.5%
12,300	101.5%
1,700	139.2%
26,973	99.8%

・つくば献血ルーム（つくば出張所）

（単位：本）

採血種別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
200m L 献血	247	258	95.7%
400m L 献血	11,677	11,598	100.7%
血漿成分献血	9,409	9,985	94.2%
血小板成分献血	4,596	4,286	107.2%
合計	25,929	26,127	99.2%

5年度計画	対計画比
96	257.3%
10,527	111.0%
8,445	111.4%
5,000	91.9%
24,068	107.7%

※つくば献血ルーム移転の効果

	令和6年3月	令和5年度4月～ 2月の実績（平均）	令和4年度実績 （平均）
つくば献血ルーム	2,443人	2,135人	2,161人
茨城全体の実績に占める つくば献血ルームの割合	27.00%	25.03%	25.19%

Ⅱ 400mL採血の計画未達成の原因及び今後の対策

移動採血

- 企業献血において、リモートワークの定着や実施見送りの継続等があり、コロナ禍前の水準に戻っていない。

令和元年度	53,425人	令和5年度	50,058人	増減	▲3,367人
-------	---------	-------	---------	----	---------

- 血液センターから依頼文書を発出したうえで、市町村担当者にも同行いただき、実施再開の依頼に努める。
- ライオンズクラブなどの各種協力団体から、献血に協力をいただけていない団体を紹介いただき、新規の協力団体と会場の開拓に努める。

水戸献血ルーム

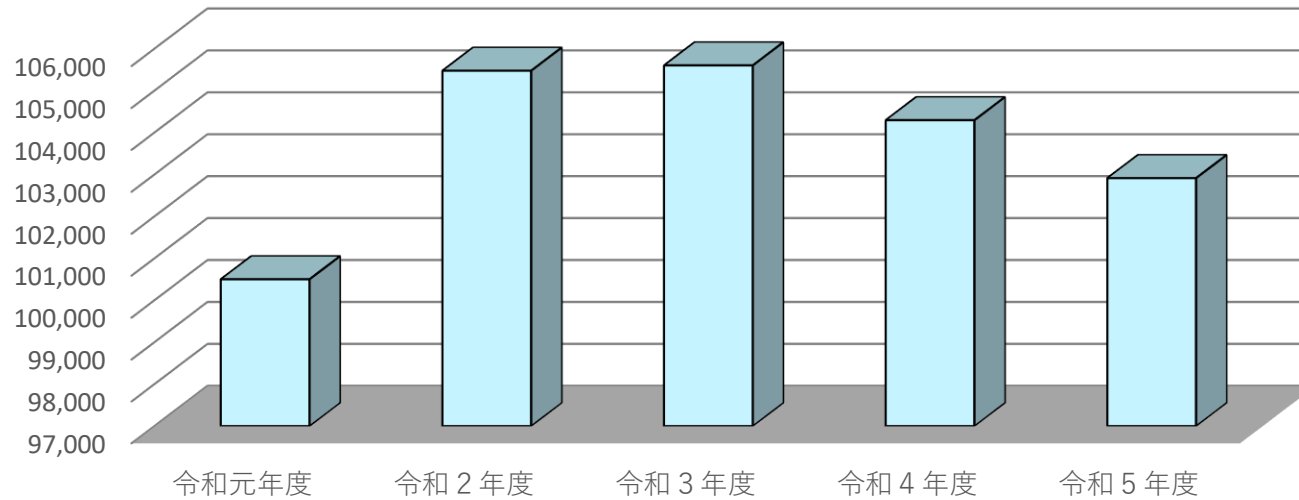
- 若年層（特に10代～20代）の協力が減少している。また、複数回献血協力への誘導もできていない。

令和元年度と令和5年度の増減	10代：▲385人	20代：▲229人
----------------	-----------	-----------

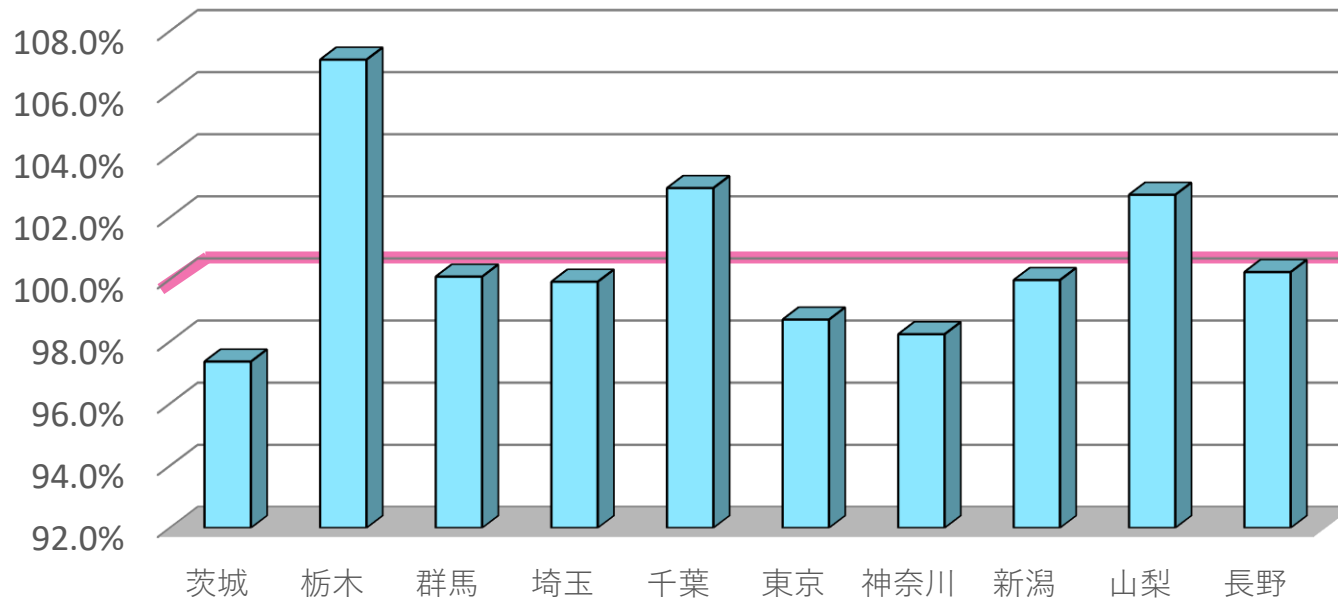
- LINEを活用し、献血ルームへの来訪を促し、来訪した際には全血献血と成分献血を組み合わせ複数回献血に協力いただくキャンペーンを実施する。
- 令和5年度に作成し、学域献血会場で配布した、献血ルームの案内と来訪を促すカードを水戸市内の高等学校や専門学校に配布する。

過去5年の採血実績推移

(単位：人)



全血採血計画達成率 (関東甲信越ブロック内血液センター)



(3) 供給実績

ア 関東甲信越ブロック全体

(単位：200mL換算本数)

製剤別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
全血製剤	2	10	20.0%
赤血球製剤	2,400,414	2,365,168	101.5%
血漿製剤	819,431	809,889	101.2%
血小板製剤	3,408,525	3,326,866	102.5%
合計	6,628,372	6,501,933	101.9%

5年度計画	対計画比
0	—%
2,370,103	101.3%
809,112	101.3%
3,326,825	102.5%
6,506,040	101.9%

イ 茨城県赤十字血液センター全体

(単位：200mL換算本数)

製剤別	5年度実績	4年度実績	対前年度比
全血製剤	0	0	—%
赤血球製剤	131,293	132,715	98.9%
血漿製剤	33,285	31,623	105.3%
血小板製剤	153,675	148,205	103.7%
合計	318,253	312,543	101.8%

5年度計画	対計画比
0	—%
134,559	97.6%
33,600	99.1%
166,100	92.5%
334,259	95.2%